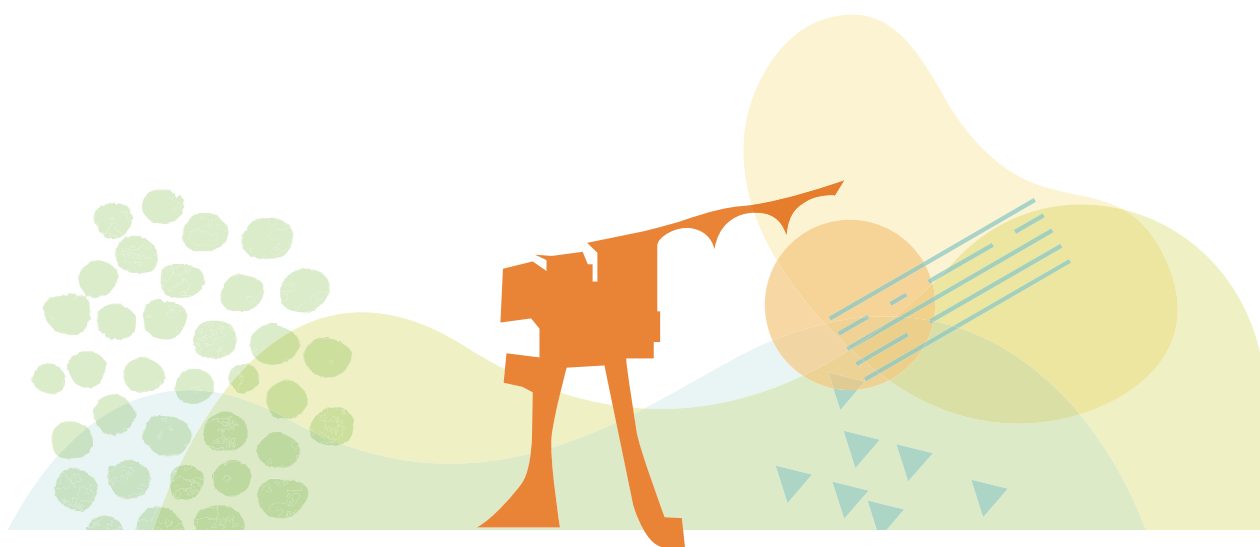


ときわ公園 活性化基本計画 (第三次)

“市民が誇れる都市公園”を
めざして



宇部市

令和4年3月

市民も企業もワクワク元気に 市民が誇れる都市公園をめざして



毛利藩の棕梨権左衛門によって造られた常盤湖、そして、湖を包みこむように広がる自然。

1698年に動き出した歴史は、時代が移り行く中でも色あせることなく続いています。

緑豊かで広大な敷地を誇る「ときわ公園」は、現在、ウォーキングなどの健康づくりや四季折々の花木の自然観察ができる市民の憩いの場となり、多くの皆様に親しまれています。また、動物園や遊園地、植物館などを有する広大なフィールドでは、世界で最も歴史のある野外彫刻コンクール「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」をはじめ、一年を通じて様々なイベントも開催されるなど、本市の貴重な観光資源として、県内外から多くの観光客の方に訪れていただいています。

この素晴らしい地域資源にさらに磨きをかけ、貴重な財産として次世代につないでいくため、平成22年から「常盤公園活性化基本計画」にもとづき、ハード、ソフト両面から集客対策に取り組んできました。その結果、平成28年度からは、入園者数が70万人を超えるまでになりましたが、令和2年度には、新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行の影響もあり、年間入園者数は55万人を割り込むまでに減少しており、新たな日常のなかにあっても、皆様にご利用いただけるような取組を進めていく必要があります。

一方、ポストコロナを見据えた新たな日常のなかでは、これまでの「市民の憩いの場」「貴重な観光資源」の2つの顔に加え、新たに「産業の創出の場」としての可能性も見出すことができました。このため、令和3年度からは、新たな産業の創出にチャレンジする「ときわ公園実証フィールド活用事業」に、取り組んでいるところです。

このたび改定する「ときわ公園活性化基本計画（第三次）」では、これらを軸として施策展開し、多様な主体との「共創」による公園づくりを通して、ときわ公園が市民の皆様に愛され、誇りを持てる都市公園になることをめざして、新たなステップを踏み出します。

結びに、本計画の策定にあたり、アンケート調査等により貴重なご意見をいただきました市民の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係団体の皆様方に心から感謝申し上げます。

令和4年（2022年）3月

宇部市長 篠崎 圭二

ときわ公園活性化基本計画

～ 目 次 ～

第1章

ときわ公園活性化基本計画の改定にあたって

【1】改定の目的	1
【2】計画の位置づけ	2
【3】計画の期間	2

第2章

ときわ公園の現状と課題

【1】沿革	3
【2】施設と資源	4
【3】年間入園者数の推移	5
【4】市民の意見(アンケート調査)	6
【5】計画の進捗状況	9
(1)目標の達成状況	9
(2)施策の実施状況	9
【6】ときわ公園各施設共通の課題	10
(1)現状や市民アンケートから	10
(2)政策課題	10
(3)目指すべき方向性	10

第3章

ときわ公園の将来像と目標指標

【1】基本方針	11
(1) 将来像	11
(2) 目標指標	12
(3) 取組の方向性	13
【2】基本計画の概要	14
【3】施設・資源別計画	16
(1) にぎわい・観光エリア	16
■動物園・遊園地	17
■ときわミュージアム【植物館】	19
■ときわミュージアム【彫刻・UBEビエンナーレ】	21
(2) 憩いエリア	23
■花木・花いっぱい運動記念ガーデン	24
■常盤湖・周遊園路・スポーツ広場・キャンプ場	25
☆緑と花と彫刻のブレスレット構想	27
【4】新たな成長産業の創出	29
【5】集客対策	31
■イベント	31
■食とお土産品	32
■情報発信	33
■観光交流対策	34

第4章

管理運営体制

【1】収支	35
(1) 収入	35
(2) 支出	35
(3) 収支バランス	36
【2】管理運営体制	36
【3】共創による公園づくり	37
■用語解説	38

第1章

ときわ公園活性化 基本計画の改定にあたって

1 改定の目的

ときわ公園は、昭和33年(1958年)に常盤遊園地が開園して以来、憩いの場として、また本市の貴重な観光施設として多くの市民や観光客に利用されています。

このような中、本市の宝であるときわ公園を、利用者にとって魅力ある場として継承していくために、効果的な活性化策と効率的な管理運営を行っていくことが課題となりました。そこで、公園の魅力づくりによる入園者の増加と持続可能な公園運営を図るための効果的かつ効率的な活性化方策を検討するために、平成22年(2010年)5月に「常盤公園活性化基本計画」を策定し、平成28年(2016年)2月にこの計画を改定して「ときわ公園活性化基本計画」を策定しました。

また、ときわ公園は本市を代表する都市公園であることから、緑豊かなときわ公園について、市民とともに豊かな自然環境を保全・再生しながら、新たな緑と花の創出を計画的に進めることを目的として「ときわ公園 緑と花の計画」を平成24年(2012年)に策定しました。

これらの計画に基づき、TOKIWAファンタジアなどのイベントの充実や、動物園と植物館をリニューアルするなど、入園者の増加に向けたハード、ソフト両面の施策を展開してきました。その結果、年間の入園者数は令和元年度(2019年度)には過去最高の78万人台を達成しましたが、その翌年の令和2年度(2020年度)には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、54万人台まで大幅に落ち込むことになりました。

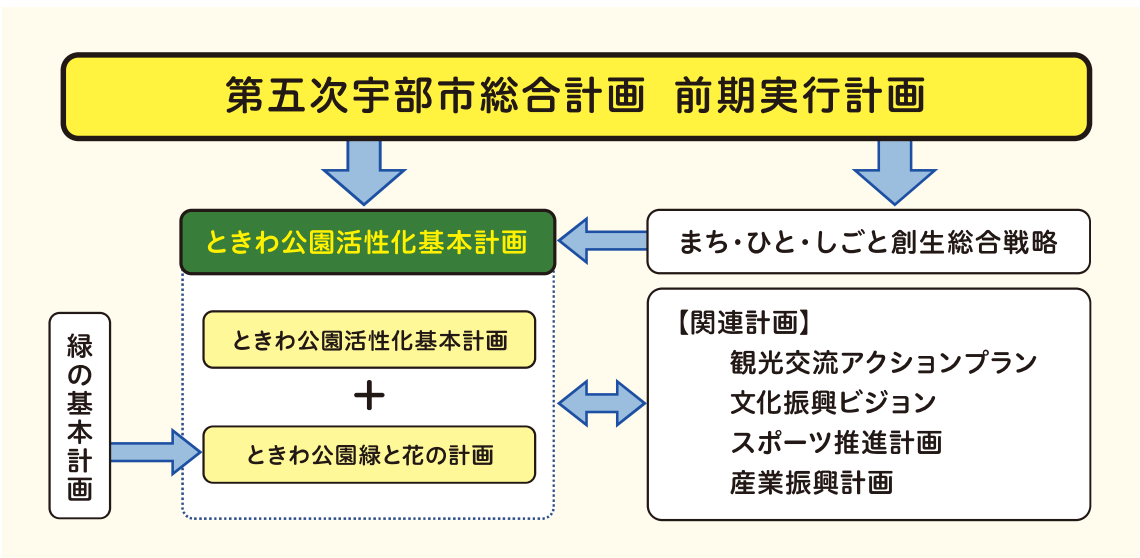
こうした中、令和3年度(2021年度)に策定された第五次宇部市総合計画では、市内はもとより国内外から人・モノ・情報の交流が進み、産業や文化・スポーツ等の様々な分野において、新たな価値が創造されるなど、本市の魅力・活力が更に高まり、賑わいと活気にあふれる「交流ひろがるまち」をめざすこととしています。

このため、市民の憩いの場であり、貴重な観光資源であるときわ公園では、ポストコロナ社会を見据えた新しい生活様式のなかにあっても、広大な自然を持つ緑豊かな都市公園として、さらに魅力をグレードアップさせ、集客力を増すことが求められています。また、令和3年度(2021年度)から新たに取り組むことになった「ときわ公園実証フィールド」の取組など、ときわ公園は人々だけではなく、企業も活用できるこれまでとは異なる機能を持った都市公園として、地域産業の振興にも寄与することになっています。

こうしたことから、このたび、「ときわ公園活性化基本計画」と「ときわ公園 緑と花の計画」の計画期間が満了することに伴い、2つの計画を融合させて新たに、「ときわ公園活性化基本計画(第三次)」とすることにしました。

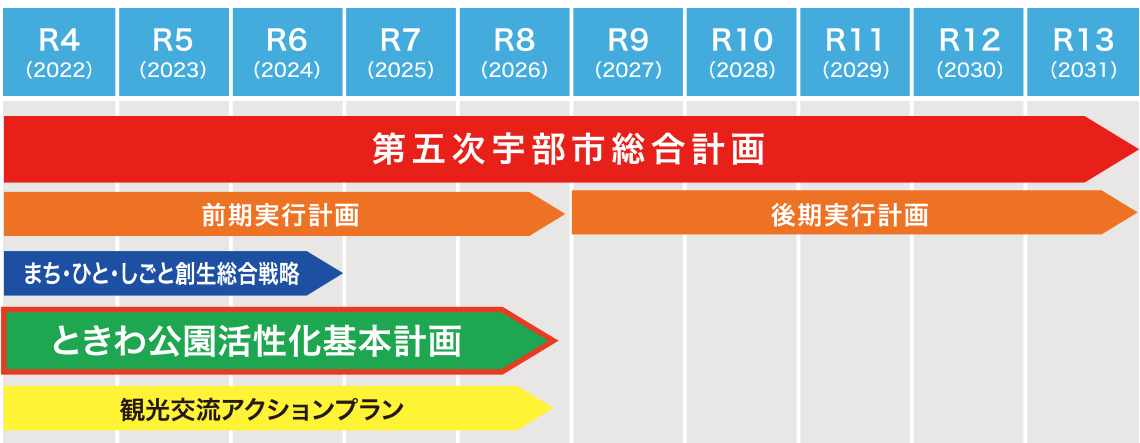
2 計画の位置づけ

本計画は、「第五次宇部市総合計画」を上位計画とし、「宇部市観光交流アクションプラン」と合わせながら、ときわ公園の活性化につなげるための計画として位置づけます。



3 計画の期間

「第五次宇部市総合計画」との整合性を図るため、前期実行計画の計画期間にあわせ令和4年度(2022年度)から令和8年度(2026年度)までの5年間とします。



第2章

ときわ公園の現状と課題

1 沿革

ときわ公園は、元禄11年(1698年)頃に灌漑用として常盤池が築堤され、昭和33年(1958年)に常盤遊園地の開園、昭和36年(1961年)に第1回宇部市野外彫刻展の開催、昭和37年(1962年)から昭和39年(1964年)に宮大路動物園をときわ公園へ移設するなど、戦災復興の象徴、市民の憩いの場として、公園整備が進められてきました。

現在は、県内初の国の登録記念物(名勝地関係)として登録され、日本の都市公園100選、さくら名所100選、「21世紀に残したい日本の風景」総合公園として第1位、美しい日本の歩きたくなるみち500選、ショウブ苑の「池坊花逍遥100選」、新日本歩く道紀行100選シリーズにおける「文化の道100選」、そして「世界かんがい施設遺産」に認定されるとともに、次世代エネルギーを活用する取組が経済産業省から「ときわ公園次世代エネルギーパーク」計画として認定されています。また、ときわ動物園や植物館のリニューアルなど、総合レクリエーション及びアミューズメントパークとしての魅力も増し、癒し・憩いの場、また観光施設として多くの方々に愛されています。



2 施設と資源

ときわ公園は、本市の東部に位置し、市民のオアシスとして、また「緑と花と彫刻のまち」のシンボルとして、常盤湖を中心に緑あふれる広大な自然を残す、面積189haの総合公園です。

平成28年(2016年)3月にグランドオープンした「ときわ動物園」は、野生動物の生息環境を再現することで本来の行動を発揮させる「生息環境展示」を特徴とし、飼育頭数日本一を誇るシロテテナガザルは木々を自由に飛び回り、国内の動物園で唯一ハヌマンラングールを展示するなど、全国でも特色ある動物園です。

「緑と花と彫刻の博物館」(愛称:ときわミュージアム)は、全国でも珍しい植物と彫刻の複合博物館として開館し、平成29年(2017年)4月には、植物エリアを改修し、「世界を旅する植物館」としてリニューアルオープンしました。リニューアル後は、「世界を旅し、感動する植物館」をコンセプトに、植物館内を世界の植生環境を意識した8つのゾーンに分け、各ゾーンを代表するシンボルツリーや季節ごとの花や果実を展示しています。

また、UBEビエンナーレ彫刻の丘では、昭和36年(1961年)以来、60年続く世界で最も歴史ある野外彫刻の国際コンクール「UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」を2年に一度開催しています。

ときわミュージアムと体験学習館“モンスタ”では、様々なワークショップや展示が実施されるなど、環境学習拠点の機能も有しています。

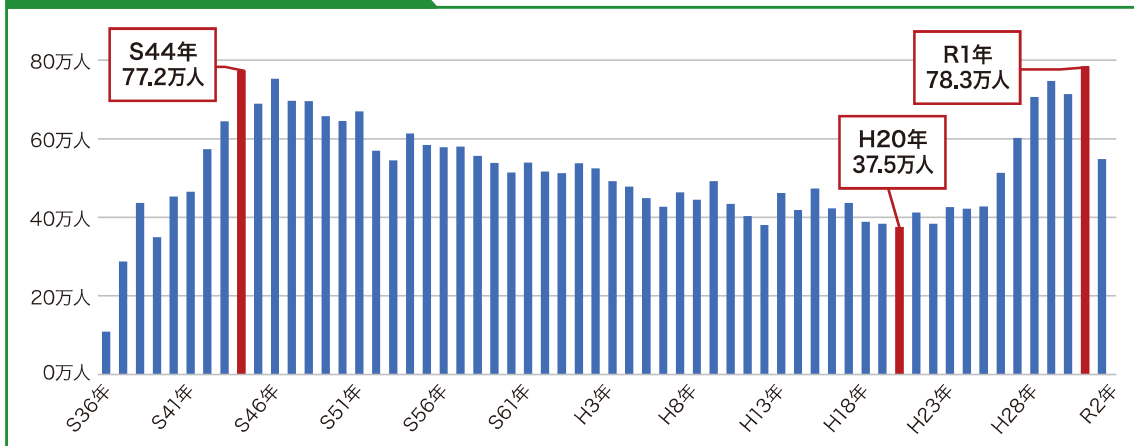
その他、本市の発展の礎となった炭鉱の歴史を展示する石炭記念館や、大型遊具が設置されている県内屈指の遊園地もあり、県内外からの観光客が増加しています。また、園内各所に設置した花壇や北部の園路沿いなどに咲く四季折々の花々を觀賞する人や、常盤湖周辺を一周する周遊園路をジョギングや散策をして楽しむ人など、年間を通じて多くの市民の憩いの場にもなっています。

3 年間入園者数の推移

昭和44年(1969年)にピークとなる77万人を記録した年間入園者数は、その後減少に転じ、平成20年(2008年)には37万人台まで落ち込みました。こうした状況を打開するため、平成22年(2010年)に「常盤公園活性化基本計画」を策定し、その後は活性化基本計画に基づいて、ときわ公園の魅力の向上に取り組んできました。

近年は、動物園と植物館のリニューアルや光と音を利用したイベントの実施、TOKIWAファンタジアをはじめとした既存イベントの充実など、ハード、ソフトの両面から誘客対策に取り組まれました。その結果、平成28年(2016年)からは、入園者数が70万人を超えましたが、令和2年(2020年)は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、54万人台まで減少しています。

ときわ公園入園者数の推移



ときわ公園の主な収入と支出の推移

(百万円)

年 度	平成 28 年度 (2016年度)	平成 29 年度 (2017年度)	平成 30 年度 (2018年度)	令和 元 年度 (2019年度)	令和 2 年度 (2020年度)
入園料等収入	140	139	114	111	66
管理運営費	485	571	523	605	479

※管理運営費は、維持管理費及びイベント費の合計額で、職員人件費は含まない。

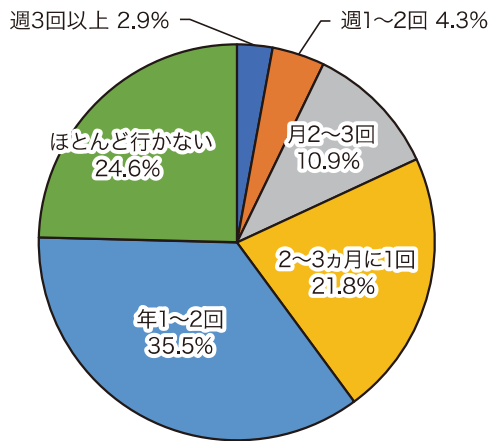
現状

- ① ときわ公園活性化基本計画に基づき、市民の憩いの場や観光施設として、施設整備やイベント、食やお土産、情報発信の充実などに取り組んだ結果、入園者の増加につながりました。今後も、持続可能な公園運営を確立するためには、収支のバランスを図りながら計画的な維持管理と魅力向上の取組が必要です。
- ② 動物園や植物館のリニューアルオープン以降、年間入園者数は令和元年度(2019年度)までの4年間、70万人を超えましたが、令和2年度(2020年度)には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、54万人台まで落ち込んでいます。観光事業者等の民間事業者との連携事業や、動物園、遊園地などのイベントや情報発信などのソフト事業の充実による入園者数の回復が必要です。

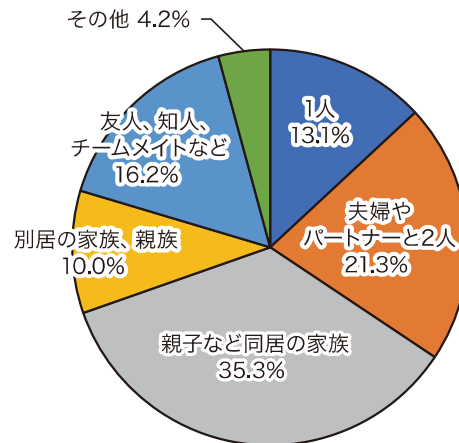
4 市民の意見(アンケート調査)

- ・調査期間：令和3年(2021年)5月～6月
- ・調査対象者：宇部市内に居住する18歳以上の方から無作為抽出
- ・調査数：3,000件
- ・調査票回収数：1,025件(回収率34.2%)

(1) 来園頻度について

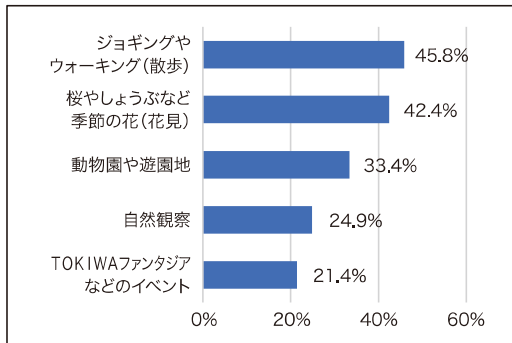


(2) 来園時の同伴者について



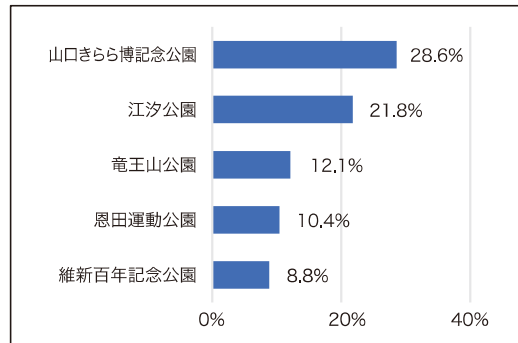
(3) 来園する目的について

(上位5項目)



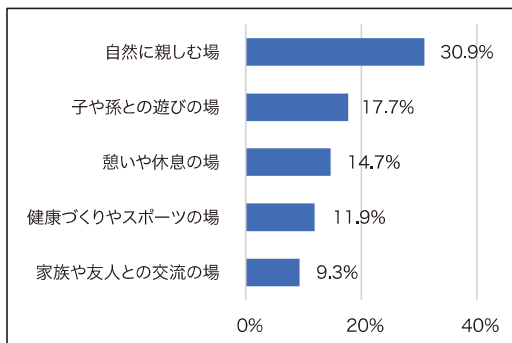
(4) ときわ公園以外でよく行く公園について

(上位5項目)



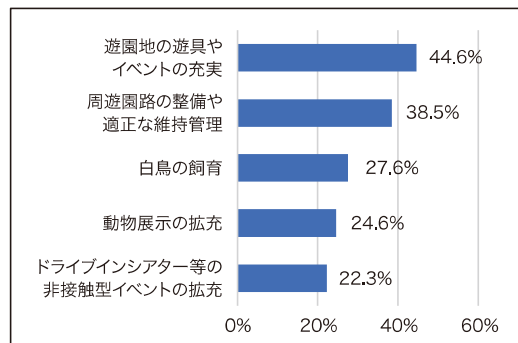
(5) 自身にとってのときわ公園の位置づけについて

(上位5項目)

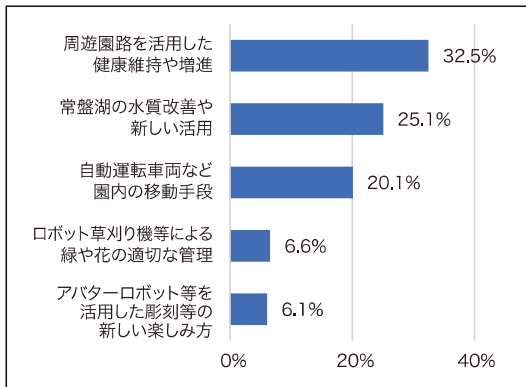


(6) 今後、力を入れるべき取組について

(上位5項目)



**(7) ときわ公園実証フィールドで
希望する事業提案について** (上位5項目)



(8) その他、自由意見について (多かった意見を要約)

- ・ アスレチックや大型遊具の設置
- ・ 駐車場の無料化
- ・ 有料施設の市民優待
- ・ トイレの改善及び拡充
- ・ キャンプ場の改善
- ・ 周遊園路の夜間照明の改善
- ・ 湖を活用したアトラクション導入 (カヌー・ボート等)

現状

グラフ(1)(2)から

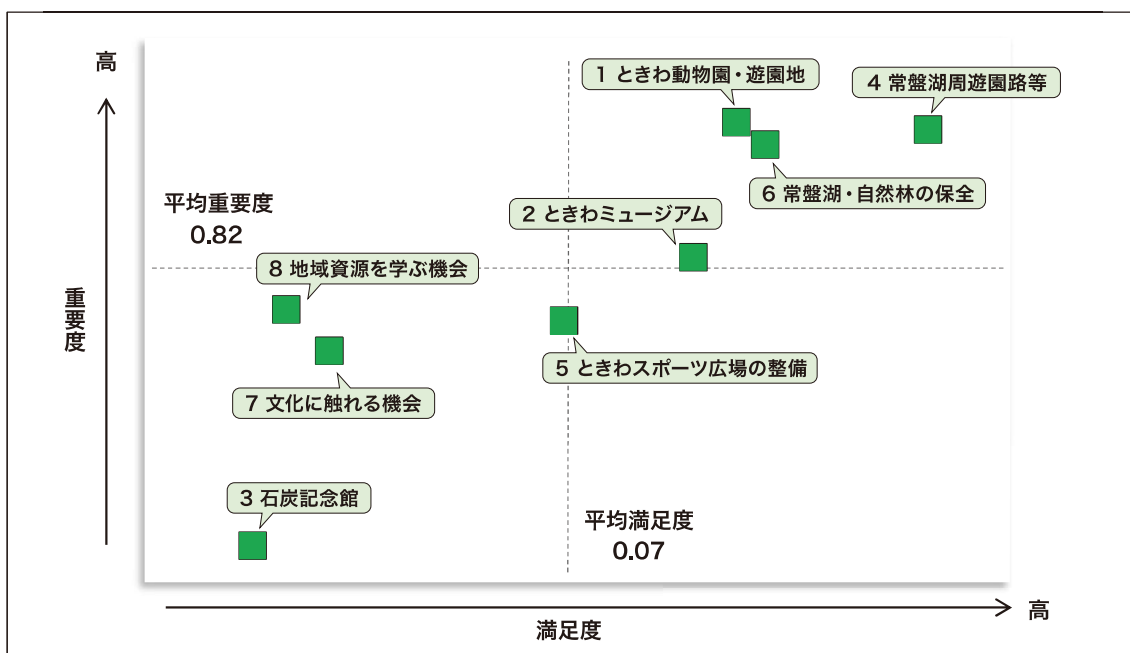
- ③ 約18%の市民が、ときわ公園を月1回以上利用されている反面、約4分の1の市民がほとんど利用しないと回答しており、市民の誰にとっても魅力ある公園づくりが求められています。
- ④ 約70%の市民が、夫婦や同居の家族などと一緒に利用しており、乳幼児から高齢者まで市民の誰もが楽しめ、憩いの場として利用できるような取組が求められています。
- ⑤ ジョギングコースやテニスコートなどの運動施設が設置されている「きらら博記念公園」と「江汐公園」や、自然林を残しながらキャンプ場が整備されている「竜王山公園」が多く利用されており、運動施設やキャンプ場の魅力向上が求められています。

グラフ(3)(4)(5)(6)から

- ⑥ 来園の目的では、ジョギングやウォーキングなど、常盤湖周遊園路の利用者が最も多く、今後取り組む施策としても、周遊園路の整備と維持管理が2番目に多くなっています。誰もが安心して利用できるような、周遊園路の整備や維持管理が求められています。
- ⑦ ジョギングなどの次に季節の花や自然観察を目的に来園される市民が多く、また、ときわ公園の位置づけでは、自然に親しむ場と感じられている市民が最も多くなっています。北部の自然林の保全活用と合わせて、四季を通じて園内の花壇や花木を楽しむことができるように、魅力ある花壇づくりや周遊園路沿いの花木の充実が求められています。
- ⑧ 今後取り組む施策としては、遊園地の遊具やイベントの充実を望む意見が最も多く、来園目的でも動物園や遊園地の利用が3番目に多くなっています。遊園地の魅力向上のために、民間事業者と連携した遊器具やイベントの充実と適正な維持管理が求められています。
- ⑨ 約4分の1の市民がハクチョウの飼育を求めており、自由意見のなかにも常盤湖の新たな活用を求める意見が多くみられますので、常盤湖の利活用の検討が求められています。

(9) これまで取り組んできた主要施策の「満足度」「重要度」について

項目名	満足度	重要度
1 ときわ動物園・遊園地	0.42	1.22
2 ときわミュージアム	0.33	0.86
3 石炭記念館	-0.59	0.09
4 常盤湖周遊園路等	0.82	1.20
5 ときわスポーツ広場の整備	0.06	0.69
6 常盤湖・自然林の保全	0.48	1.16
7 文化に触れる機会	-0.43	0.61
8 地域資源を学ぶ機会	-0.52	0.72
平均	0.07	0.82



「常盤湖周遊園路等」に関する取組が重要度も満足度も高くなっている一方で、重要度、満足度ともに平均値より低い取組として、「石炭記念館」が挙げられています。

現状

グラフ(9)から

- ⑩ これまでのときわ公園の施策については、ほとんどの施策が右上に位置しており、重要度、満足度ともに高くなっていますが、3石炭記念館だけが左下に位置しており、石炭記念館のあり方について、検討が求められています。
- ⑪ 7文化に触れる機会や8地域資源を学ぶ機会の充実は、重要度は平均値付近にありますが、満足度は平均値を下回っています。本市を代表する文化であり、地域資源でもある野外彫刻を次世代に引き継ぐとともに、シビックプライドを醸成するために、野外彫刻を学ぶ機会の充実や適正な維持管理が求められています。
- ⑫ 5ときわスポーツ広場の整備は、観光、スポーツ、文化の施策全体の中では、重要度は平均値、満足度は平均値をわずかに上回っていますが、ときわ公園の施策の中では、いずれも平均値を下回っていますので、スポーツ広場の魅力向上の取組が求められています。

5 計画の進捗状況

(1) 目標の達成状況

平成28年(2016年)2月に改定した「ときわ公園活性化基本計画」に基づき「年間入園者数80万人」の達成を目指して、ハード、ソフト両面の施策を展開してきました。その結果、目標年次の前年である令和元年度(2019年度)には78万人を超える入園者があり、目標の達成が目前に迫りましたが、目標年次の令和2年度(2020年度)には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、入園者は54万8千人にとどまりました。

	平成 28 年度 (2016年度)	平成 29 年度 (2017年度)	平成 30 年度 (2018年度)	令和 元 年度 (2019年度)	令和 2 年度 (2020年度)
目標値	70 万人	75 万人	80 万人	80 万人	80 万人
実績値	70.5 万人	74.6 万人	71.2 万人	78.3 万人	54.8 万人
達成率	100.7 %	99.5 %	89.0 %	97.9 %	68.5 %

※実績値について、平成29年度(2017年度)以降は、駐車台数からの推計値とスポーツ広場利用者数を合計した人数を記載

(2) 施策の実施状況

「ときわ公園活性化基本計画」に掲載した269施策のうち、終了または完了したものは、動物園の「自然の地形や樹木を活かした遊び場の創出」など158施策、今後も継続するものは、植物館の「サボテンの保有品種数日本一に向けた取組」など90施策となっており、実施率は92.9%になっています。これらの施策を展開した結果、令和元年度(2019年度)まで順調に来園者を増やすことができました。

今後も、ポストコロナ社会の中にあっても、ソフト面を中心に施策を展開し、広大な自然を持つ緑豊かで集客力のある都市公園を目指します。

なお、未着手の21施策のうち、今後も継続して取組むものは「スポーツ広場や周遊園路活用者のためのシャワー施設等の検討」など3施策、内容を一部変更して継続するのは「秋に紅葉が楽しめる環境整備」など3施策としています。



(ときわミュージアム 世界を旅する博物館)

6 ときわ公園各施設共通の課題

(1) 現状や市民アンケートから

課題の背景

- ポストコロナ社会の新しい日常のなかであっても、多彩なイベントの開催やオリジナル商品の開発などにより、魅力をさらに磨き上げ、入園者の回復を図る必要がある。
- 平成20年(2008年)頃と比較すると入園者は増加していますが、人件費の高騰や施設の老朽化などにより、管理運営経費も増加傾向にあり、収支バランスを図りながら、誰もが楽しめる魅力ある都市公園としての管理運営が必要である。
- ポストコロナ社会の新しい日常に対応しながら、市民の憩いの場として、年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、市民の誰もが訪れたい魅力ある公園づくりが必要である。

現状①

現状②

現状①

現状③

現状④

(2) 政策課題

【市民との協働・共創の推進】

- 年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、市民が活躍できる場を提供するために、ボランティアの育成に取組みながら、企業やボランティア団体等との連携を強化して、市民との協働と共創により公園運営を支えていく体制づくりが必要である。(見直し)

政策①

【新型コロナウイルス感染症への対応】

- ポストコロナ社会を見据えた新しい日常への対応とともに、注目が集まっているワーケーション等への対応やキャンプ場の整備を、民間事業者などと連携しながら取り組む必要がある。(新規)

政策②

【アートによるまちづくりの推進】

- 彫刻を通じて、様々な人と人との交流の場を創出できるように、誰でも参加できるプログラムの開発が必要である。(新規)

政策③

【新たな成長産業の創出】

- 新たな公園利用者として企業等の民間事業者を位置づけ、ときわ公園実証フィールド活用プロジェクト(愛称:「ときチャレ」)を活用しながら、地域産業の振興と公園を活性化することにより、若者が地元に着定したくなるまちづくりに取り組む必要がある。(新規)

政策④

※前計画の課題の一部変更…(見直し)
第3次計画の新規課題…(新規)

(3) 目指すべき方向性

ポストコロナ社会の中にあっても、ソフト面を中心に施策を展開し、広大な自然を持つ緑豊かで集客力のある都市公園とともに、新たな成長産業の創出を目指します。また、本市の主要な観光資源として、各施設等の魅力の磨き上げと新たな魅力の創出に取り組み、本市の観光交流を推進します。

第3章

ときわ公園の将来像と 目標指標

1 基本方針

市民が誇れる都市公園をめざして

(1) 将来像

ときわ公園は、平成28年(2016年)に野生動物の生息地を再現して動物たちが本来の行動を発揮させる「生息環境展示」に動物園をリニューアルし、平成29年(2017年)には、「世界を旅し、感動する植物館」をコンセプトに、バオバブやミレニアムオリーブなど珍しい植物が鑑賞できる植物館としてリニューアルするなど、個性的な公園整備を進めてきました。

また、園内には、広大な自然環境の中に、世界で最も歴史ある野外彫刻コンクール「UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」の会場となる彫刻の丘や国内初の石炭記念館、大型遊具が設置された遊園地など、多彩なアミューズメント施設や、1周約5.7kmの常盤湖周遊園路を有しています。これらの施設を活用して、年間を通じて様々なイベントを開催することで、人々に楽しみや憩い、健康づくりなど、多様な過ごし方を提供できる貴重な都市公園として進化してきました。

これらの取組により、平成28年度(2016年度)から令和元年度(2019年度)までの来園者数は70万人を超えていましたが、令和2年度(2020年度)は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、園内施設は休園や休館を余儀なくされ、来園者が激減し、大変厳しい状況になりました。

一方で、ポストコロナ社会を見据えた新しい日常のなかで、広大な敷地と豊かな自然を持つときわ公園は、都市公園として多くの市民に利用されており、さらに三密を避けることができる観光施設や、ワーケーション、キャンプなどへの需要が増すなど、新たなビジネスチャンスも生まれています。

今後は、その時代の市民ニーズと社会ニーズに合わせた取組を柔軟かつ迅速に推進することによって、市民の憩いの場と感染症にも負けない元気な観光交流の拠点の両方を実現し、地域経済の活性化につなげます。

また、令和3年度(2021年度)から新たに取り組んでいる「ときわ公園実証フィールド活用プロジェクト」により、社会的な課題や市民生活の質の向上、新たな日常への対応などにつながる実証フィールドとしてときわ公園を活用し、企業等が新たなビジネスにチャレンジできる場も創出します。

これらの施策を展開することで、ときわ公園は**市民も企業もワクワク元気になり**、全国に**市民が誇れる都市公園**になることをめざして、さらに進化を続け、シビックプライドの醸成やシティセールスに繋げていきます。

また、この素晴らしい公園を次世代につないでいくために、民間事業者との新たな連携手法の導入も視野に入れながら、効率的かつ安定した管理運営を進めていきます。

(2) 目標指標

基本目標①	年間入園者数	令和8年度(2026年度)
		80万人

令和元年度(2019年度)の年間入園者数は78万人を上回り、前計画の目標値“年間入園者数80万人”の達成は目前まで迫っていましたが、令和2年度(2020年度)には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、年間入園者数は大きく落ち込んだだけでなく、令和3年度(2021年度)になっても新型コロナウイルス感染症の沈静化の目途は全くたたない状況になっています。今後もコロナ禍の厳しい状況が継続することがあっても、一定の入園者数を確保することが将来像を達成するために必要な指標になりますので、目標値は引き続き年間入園者数80万人とします。

基本目標②	実証フィールド活用件数	令和8年度(2026年度)
		延べ20件以上

ときわ公園の活性化と成長産業の創出を図るために、ときわ公園をビジネスチャレンジの場として活用する「ときわ公園実証フィールド活用プロジェクト」(愛称「ときチャレ」)に、令和3年度(2021年度)から取り組んでいます。プロジェクトチーム内での提案による公募だけではなく、市内企業等に向けても広く実証フィールドとしての活用を募集するなどして、計画期間中に実証フィールドとして活用され、企業に寄り添いながら支援を行う実証事業の件数延べ20件以上を目標とします。

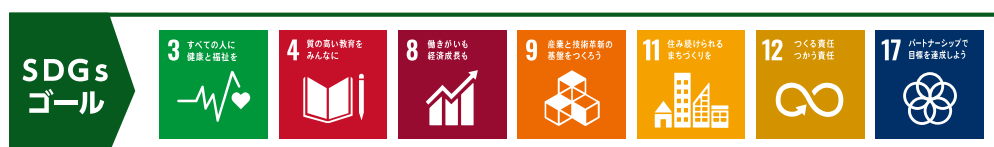
(3) 取組の方向性

市民の要望や政策課題の解決に取り組みながら、これらの目標を達成するために、次の方向性に従い施策を展開します。

方向性 ①	周遊園路や動物園、植物館など既存資源の魅力の磨き上げと、新たな魅力の創出により、入園者の増加に取り組みます。
方向性 ②	魅力あるときわ公園を後世に引き継ぐために、持続可能な公園経営ができる安定的な管理運営体制に見直します。
方向性 ③	ポストコロナ社会の新しい日常のなかでも、誰もが楽しめる公園づくりに取り組みます。
方向性 ④	公園の管理運営を支える人材を育成しながら、企業やボランティア等市民との協働と共創による公園づくりを推進します。
方向性 ⑤	「UBEビエンナーレ」を通じて、市民が多彩な彫刻に触れる機会を創出し、アートによるまちづくりを推進します。
方向性 ⑥	地域産業の振興を図るため、ときわ公園のフィールドを活用して商品開発に取り組む企業を支援します。

本計画に基づき展開する各施策は、持続可能な開発目標の達成に貢献するものです。

特に関連の強い開発目標は、「3. すべての人に健康と福祉を」「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任つかう責任」「17. パートナリシップで目標を達成しよう」になります。



SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられており、17のゴールから構成されています。



2 基本計画の概要

エリア区分

ときわ公園を「にぎわい・観光エリア」と「憩いエリア」の2つのエリアに分け、各エリアの施設や資源ごとの課題を抽出し、施策を展開します。



各エリアの主な施設・資源

にぎわい・観光エリア



(ときわ動物園)



(体験学習館モンスター)



(ときわ遊園地)



(TOKIWAファンタジア)



(ときわミュージアム世界を旅する植物館)



(UBEビエンナーレ彫刻の丘)



(ときわ湖水ホール)



(石炭記念館)



(じゃぶじゃぶ池)

憩いエリア



(常盤湖)



(周遊園路)



(ときわ湖畔北キャンプ場)



(スポーツ広場)



(ショウブ苑)



(桜山)

3 施設・資源別計画

(1) にぎわい・観光エリア

にぎわい・観光エリアには、「動物園・遊園地」「ときわミュージアム【植物館】」「ときわミュージアム【彫刻・UBEビエンナーレ】」があり、来園者が各施設の展示やイベントなどを通じて、非日常を楽しむことができるエリアとします。

個別目標と行動指標

動物園・遊園地

個別目標 指標	内 容	基準値	目標値		
個別目標	動物園の入園者数(千人/年)	R 2 年度 (2020年度)	85	R 8 年度 (2026年度)	160
指標	遊園地でのイベントの実施日数(日/年)	R 1 年度 (2019年度)	53	R 8 年度 (2026年度)	80

ときわミュージアム【植物館】

個別目標 指標	内 容	基準値	目標値		
個別目標	植物館の入館者数(千人/年)	R 2 年度 (2020年度)	27	R 8 年度 (2026年度)	60
指標	企画展、イベントの開催数(日/年)	R 1 年度 (2019年度)	197	R 8 年度 (2026年度)	240

ときわミュージアム【彫刻・UBEビエンナーレ】

個別目標 指標	内 容	基準値	目標値		
個別目標	「UBEビエンナーレ」に対する市民の理解度(%)	R 3 年度 (2021年度)	73	R 8 年度 (2026年度)	80
指標	彫刻教育の実施回数(回/年)	R 3 年度 (2021年度)	30	R 8 年度 (2026年度)	40

動物園・遊園地

目指す方向 世界の生息地を旅しながら動物に出会える”動物園”

目指す方向 動物園と一体感のある”みんなの笑顔あふれる遊園地”

1 施設・資源の現状

- 動物園は、平成28年(2016年)3月にリニューアルオープンし、野生動物の生息環境を再現した「生息環境展示」が特徴の動物園であり、緑豊かな園内で、貴重な動物種の自然のままの姿が観察できる。



(シロテテナガザルの生息環境展示)

- 動物園内では、小動物のえさやりなど、動物とのふれあい体験ができ、隣接する体験学習館“モンスター”では、命の大切さや自然環境について、楽しみながら学ぶことができる。



(ふれあい動物)

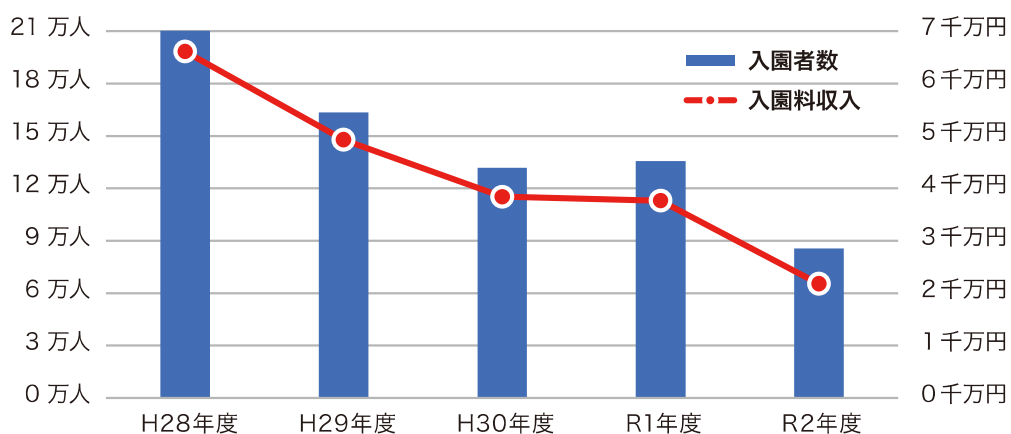
- 遊園地は、民設民営の公園施設であり、観覧車やメリーゴーランドなど大型遊具8機種をはじめ、誰もが楽しめる遊具が設置されている。



(ときわ遊園地)

- 遊園地では、多彩なイベントを開催しており、特に「TOKIWAファンタジア」には、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が来園している。

動物園の入園者数と入園料収入の推移



2 課題

課題の背景	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染症に対応しながら、動物とのふれあいイベントの充実や大型遊具のリニューアルなどにより、動物園、遊園地の魅力を向上させ、集客力を強化する必要がある。(新規) 	<p>現状②</p> <p>現状⑧</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 市が主催する「TOKIWAファンタジア」のような大規模イベントだけではなく、小規模イベントの開催や、企業、団体等の主催イベントの誘致などにより、収支バランスを図りながらイベントの充実に取り組む必要がある。(新規) 	<p>現状⑧</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 収支バランスが図られた動物園の健全経営を実現するために、経費の節減と収入の増大に向けた取組が必要である。 	<p>現状①</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 魅力の向上と安心、安全を両立するために、動物園、遊園地ゾーンの施設や設備、樹木などの適正な維持管理が必要である。(新規) 	<p>現状⑧</p>

3 施策

ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間団体等が主催する大道芸やパフォーマンスなどの披露の場としての活用や、企業等が主催等するイベントの誘致により、経費を節減しながら遊園地ゾーンのにぎわい創出 	<p>新規</p> <p>方向性①</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 収支バランスを図りながら、市民が気軽に何度でも訪れたいTOKIWAファンタジアに実施方法を見直し 	<p>方向性①</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ イベント開催時のキッチンカーの導入による食の充実と園内店舗内の三密回避 	<p>拡充</p> <p>方向性①</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 安定した動物園運営に必要な入園料収入を回復するために、動物とのふれあいなど、入園者イベントの充実 	<p>方向性②</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動物園を支援する個人や企業からなる「動物園サポーター」の拡充により、市民と協働による魅力ある動物園づくり 	<p>方向性④</p>
ソフト+ハード	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「ふれあい動物広場」の拡張と、多様な動物とのふれあいの実施など、ふれあいイベントの拡充 	<p>新規</p> <p>方向性①</p>
ハード	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遊園地の大型遊器具の適正な維持管理とともに、遊器具の更新やデザインの変更など、定期的なリニューアルの実施 	<p>方向性②</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 安心して動物を観察できるように、適正に樹木や施設が維持管理された中での生息環境展示の実施 	<p>方向性②</p>

ときわミュージアム【植物館】

目指す方向 世界を旅し、感動する”植物館”

1 施設・資源の現状

- 平成29年(2017年)4月にリニューアルオープンし、「世界を旅し、感動する植物館」をコンセプトに、アジア、オセアニアなど8つのゾーンに分けて植物を展示し、国内最大級のバオバブの木などがシンボルツリーとなっている。
- サボテンは約500種約4,500株を保有し、このうち常時約550株を展示しており、ときわ公園で作出したオリジナルサボテンの品種は、約100種にのぼる

各ゾーンのシンボルツリー



バオバブ
(アフリカゾーン)



オリーブ
(ヨーロッパゾーン)



ガジュマル
(熱帯アジアゾーン)



キメンカク
(南アメリカゾーン)



ボトルツリー
(オセアニアゾーン)



ハンカチノキ
(中国・アジアゾーン)

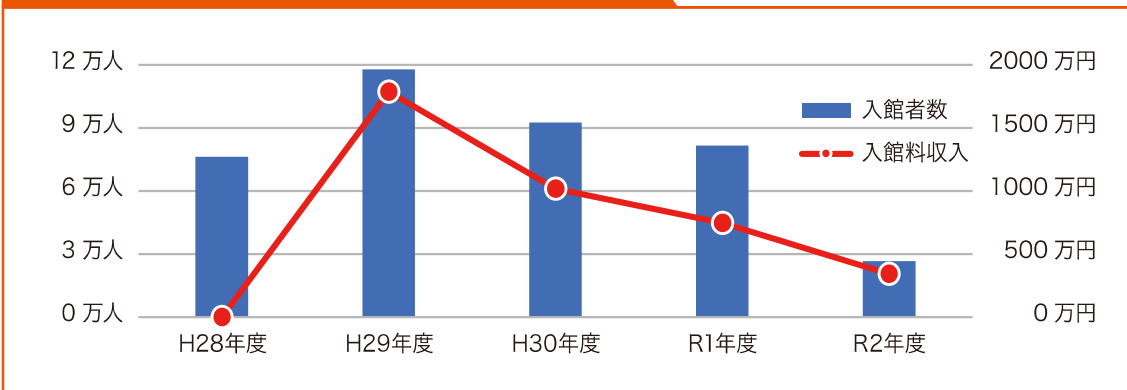


プリンチュウ
(北中アメリカゾーン)



パラボラッチョ
(熱帯アメリカゾーン)

植物館の入館者数と入館料収入の推移



※H29年度から入館料を有料化したため、H28年度の入館料収入は0円

2 課題

課題の背景	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染症に対応しながら、誰もが楽しめる魅力ある展示やイベント等を開催することにより、集客力の強化が必要である。 	現状②
<ul style="list-style-type: none"> ■ 経費を節減しながら、いつでも、誰にとっても魅力ある植物館にするために、管理運営体制の見直しが必要である。(新規) 	現状④
<ul style="list-style-type: none"> ■ 以前は、売店や喫茶室として利用されていたスペースが未利用となっており、有効活用する必要がある。 	現状①
	現状③

3 施策

ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ■ 普段見ることができない早朝や夜間のガイドツアーの実施や、五感を使うなどした新たな鑑賞方法の実施など、誰もが楽しみながら鑑賞できる「魅せる展示」を実施 方向性①
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他の植物館では見ることができない植物やシンボルツリーなど、来館者に感動を与え、植物への関心が芽生える展示やイベントを開催 方向性①
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経費を節減しながら、誰にも魅力ある植物館にするために、管理運営体制を見直し 新規 方向性②
ソフト+ハード	<ul style="list-style-type: none"> ■ サボテンの保有品種数日本一を目指した未保有品種の購入や品種改良の実施とともに、希少な品種を公開するための展示スペースの拡大の検討 方向性①
	<ul style="list-style-type: none"> ■ ときわミュージアム喫茶室の再開または新たな活用方法を検討 新規 方向性②
	<ul style="list-style-type: none"> ■ ときわミュージアム売店の再開または新たな活用方法を検討 新規 方向性②

ときわミュージアム【彫刻・UBEビエンナーレ】

目指す方向 想像力と豊かな感性を育む場づくり

1 施設・資源の現状

■ UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)は、世界で最も歴史ある野外彫刻の国際コンクールで、常盤湖を望むUBEビエンナーレ彫刻の丘では、2年に一度、国内外の現代アーティストによる野外彫刻の展覧会を開催している。



蟻の城 (向井 良吉)

■ 園内には、約300点の彫刻作品を保有しており、このうち屋外ではUBEビエンナーレ受賞作品を中心に、約100点の野外彫刻作品を展示している。



はじめのはじまり (三宅 之功)

■ 本市は、まちづくりにアートを取り入れたアートによるまちづくり“発祥の地”であり、「緑と花と彫刻のまち宇部」の象徴として、彫刻は、宇部の文化を発信する役割を担っている。

■ UBEビエンナーレライブラリー及びアートギャラリーでは、市所蔵作品展のほか、企画展やワークショップなどを定期的を開催している。

2 課題

課題の背景

■ 想像力と豊かな感性を育むため、野外彫刻だけではなく屋内彫刻や彫刻模型も活用しながら、より魅力ある彫刻鑑賞体験の場を継続的に提供する必要がある。

現状①

■ 教育関連部署等と連携しながら、彫刻と教育をつなげていくためのさらなる工夫が必要である。

現状①

■ 本市の貴重な財産である彫刻を次世代に引き継ぐために、有効な維持管理の手法を検討する必要がある。

現状①

■ 彫刻を通じて、様々な人と人との交流の場を創出できるように、誰でも参加できるプログラムの開発が必要である。(新規)

政策③

3 施策

ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ■ 彫刻ボランティアやアートコミュニケーターなど市民団体等が主催する彫刻清掃活動やイベント企画及び小中学生による清掃活動授業への支援 [拡充] [方向性④] ■ UBEビエンナーレをこれからも継続的に開催していくために、彫刻だけではなく、多様なアートに触れる機会を創出 [拡充] [方向性⑤] ■ 市民と協働したアートイベントの拡充を図り、市民とともにつくるビエンナーレを実施 [拡充] [方向性⑤] ■ 入賞作家によるワークショップや作品展開催など、作家との連携を強化し、市民と作家の交流の場を創出 [拡充] [方向性⑤] ■ アートによるまちづくり“発祥の地”としての歴史や彫刻の魅力の発信、UBEビエンナーレゆかりの作家とその作品に関する調査・研究及びアーカイブの充実など、内外に向けた情報発信の強化 [拡充] [方向性⑤] ■ PRブースの設置や広報媒体への相互の情報掲載など、全国的に評価の高い他の芸術祭や文化施設等との連携強化 [方向性⑤] ■ 柳原義達・向井良吉作品をはじめとする屋内コレクションを常設展示するとともに、市所蔵作品の定期的な企画展を開催 [方向性⑤] ■ ものづくり体験のワークショップを対面だけでなく、オンライン配信による作家との交流など、新たな日常に対応しながら開催 [拡充] [方向性⑤] ■ 小中学生を対象とした想像力と豊かな感性を育む彫刻教育の推進とともに、様々な年代や条件に対応できるバラエティ豊かな体験プログラムを作成 [拡充] [方向性⑤] ■ スマートフォンを活用した彫刻スタンプラリーなど、デジタル技術を活用したコンテンツの開発 [方向性⑤] 	
	ソフト+ハード	<ul style="list-style-type: none"> ■ 貴重な市所蔵作品等を適切に保管していくための収蔵庫等の環境を整備 [新規] [方向性⑤] ■ 緑と花との調和や景観にマッチした作品を選定するとともに、誰もが親しみやすく鑑賞できるような作品配置とし、魅力的で居心地のよい彫刻の鑑賞空間づくり [拡充] [方向性⑤]
	ハード	<ul style="list-style-type: none"> ■ 野外彫刻の定期的な点検とその結果に基づく計画的なメンテナンスの実施 [拡充] [方向性⑤]

(2) 憩いエリア

憩いエリアは「花木・花いっぱい運動記念ガーデン」と「常盤湖・周遊園路・スポーツ広場・キャンプ場」を位置づけ、四季折々の花などの自然観察や自然とのふれあいの場、スポーツ広場での運動や常盤湖周遊園路を活用したウォーキングなどを通じた健康づくりの場など、憩いを提供するエリアとします。

個別目標と行動指標

花木・花いっぱい運動記念ガーデン

個別目標 指標	内 容	基準値		目標値	
個別目標	花づくりのボランティア活動に参加した延べ人数(人/年)	R 2 年度 (2020年度)	563	R 8 年度 (2026年度)	1,000
指標	花壇等の総面積(花いっぱい増設計画)(㎡)	R 3 年度 (2021年度)	7,354	R 8 年度 (2026年度)	8,000



(花いっぱい運動記念ガーデン)



(ポタン苑)

常盤湖周遊園路

個別目標 指標	内 容	基準値		目標値	
個別目標	周遊園路の利用人数(千人/年)	R 2 年度 (2020年度)	215	R 8 年度 (2026年度)	350
指標	スポーツ広場周辺の歩道の整備	R 3 年度 (2021年度)	検討	R 7 年度 (2025年度)	完了



(周遊園路)



(スポーツ広場)

花木・花いっぱい運動記念ガーデン

目指す方向 **花や自然があふれた”癒しの空間”**

1 施設・資源の現状

- 園内には、桜山、梅園などの花苑のほか、出会いの広場、^{はなえみ}花笑広場、大花壇などの花壇もあり、年間を通じて季節の花を楽しむことができる。
- 園内のサクラは「さくら名所100選」、ショウブ苑は「池坊花逍遥100選」に認定されている。
- 花いっぱい運動記念ガーデンは“市民みんなでつくりみんなで育てるガーデン”をコンセプトに維持管理され、バラやハーブなどが癒しの空間を演出している。

2 課題

課題の背景	
■ ショウブ苑など花苑の環境改善や周遊園路沿いの花木など、四季を通じて花が楽しめるように、花木の充実が求められている。	現状⑦
■ 市民との協働による魅力ある公園づくりを進めるために、イベントや講習会を通じて、花木を管理できるボランティアの育成が必要である。	政策①
■ 園内では、多くの個人や団体のボランティアが、公園の維持管理にあたっているが、相互に連携が図られていないため、ボランティア間の連携が図れる体制づくりが必要である。	政策①

3 施策

ソフト	■ 花の見頃マップやSNSなど、様々な情報媒体を活用した開花情報の提供	方向性①
	■ 花壇や花木を活用したイベントの開催などにより、花の栽培に興味のある人材の育成	方向性④
	■ ボランティアとの連携を強化するために、連絡協議会等の設置を検討	新規 方向性④
ハード	■ 桜山などのサクラの老木を更新	方向性①
	■ ショウブ苑の鑑賞環境の整備と適正な維持管理	方向性①
	■ 花いっぱい増進計画の推進	方向性①
	■ 「(仮)紅葉の小道」「(仮)香りの森」などの整備	新規 方向性①

常盤湖・周遊園路・スポーツ広場・キャンプ場

目指す方向

豊かな自然と回遊性をもった”憩いの空間”

1 施設・資源の現状

- 常盤湖は、江戸時代に灌漑用として造られ、緑豊かな里山に囲まれている人工湖で、湖畔には、野外彫刻や様々な花木があり、多くの来園者が鯉に餌を与え、白鳥や水鳥を観察するなど、市民などの憩いの場となっている。また、常盤神社周辺には松林が連なっており、松くい虫防除事業により保全に努めている。
- 常盤湖の湖畔を巡る1周約5.7kmの周遊園路沿いには、野外彫刻や様々な花木があり、風景を楽しみながらウォーキングやジョギングを楽しむことができ、この園路は、「美しい日本の歩きたくなるみち500選」や新日本歩く道紀行100選シリーズにおける「文化の道100選」に認定されている。
- 常盤湖の北側には、サッカー場や多目的広場、グラウンドゴルフ場が整備された「ときわスポーツ広場」と、湖畔に面し、他の三方を里山に囲まれ緑豊かなキャンプ場が整備されている。

2 課題

課題の背景	
■ 常盤湖の水質保全や新たな活用の検討とともに、鳥インフルエンザの感染防止対策をしながら、白鳥の飼育数の増大が求められている。	現状⑨
■ ときチャレに参加する企業等が利用しやすいように、進入路やシェアオフィスなどの環境整備が必要である。	政策④
■ 周遊園路の利用者が安心、安全に利用できるように、ときわスポーツ広場内道路の歩道整備と合わせて、園路の舗装や照明灯の整備と周辺の花木等の適正な維持管理が求められている。	現状⑥
■ 大規模なスポーツ大会の誘致などのスポーツツーリズムの推進や、周遊園路と北部施設の利用者が、いつでも安心して利用できるように駐車場の拡大など、スポーツ広場の整備が求められている。	現状⑤
■ ポストコロナ社会を見据えた新しい日常の中で注目が集まっているワーケーション等への対応やキャンプ場の再整備を、民間事業者などと連携しながら推進し、新たな利用者を獲得する必要がある。(新規)	政策②

3 施策

ソフト	■ 周遊園路を活用したウォーキングイベント等の開催	方向性①
	■ 野鳥が飛来する自然環境を保全するため、常盤湖の水質調査と水環境の保全や自然林の計画的な維持管理	方向性①
ソフト+ハード	■ 鳥インフルエンザへの感染予防対策を進めながら、概ね20羽を目標とした白鳥の飼育数の増大とそれに合わせた飼育舎の増設	新規 方向性①
	■ 貸しボートやスワンボート等を活用した集客対策や地域産業の振興につながる取組など、新たな常盤湖の活用方法について検討	新規 方向性①
	■ シャワー室の設置など北キャンプ場の再整備の検討と、キャンプ場周辺の里山を活用した昆虫採取などのイベントの開催	新規 方向性①
	■ スポーツ広場駐車場の拡張	新規 方向性①
ハード	■ 歩道が整備されていないスポーツ広場周辺の歩道と照明灯の整備	新規 方向性①
	■ 周遊園路周辺のトイレ等に防犯カメラを設置	新規 方向性①
	■ 周遊園路沿いの花木の充実	方向性①
	■ 周遊園路の舗装や花木の適正な維持管理	方向性①
	■ 常盤湖畔の原風景を残す松林の適正な維持管理	方向性①
	■ 企業の公園利用に対応できるように、園外から車両による乗り入れができる進入路やシェアオフィス整備の検討	拡充 方向性④



(ときわ湖畔北キャンプ場)



(常盤湖・スワンボート)



(常盤湖・白鳥)

緑と花と彫刻のブレスレット構想

常盤湖を掌、各拠点を宝石に見立て、それらを周遊園路でつないでいくブレスレットのような構成をイメージしながら、それぞれの宝石をバランスよく磨き上げ、ブレスレットの価値(ときわ公園の魅力)を高めていくことを目指します。

全体

【方向性①】

■施設のバリアフリーと職員の心のバリアフリーの推進 **拡充**

【方向性②】

■安定的な管理運営体制への見直し **新規**

【方向性③】

■近隣の宿泊施設と連携したワーケーションやブレジャーなど旅行商品の開発 **新規**

■キャッシュレス決済の導入やソーシャルディスタンスの確保 **新規**

【方向性④】

■公園の維持管理やガイドなど、ボランティアの育成と活用

■「動物園サポーター」や「ときわ公園サポーター」の拡充

【方向性⑥】

■自動運転バスの運行等による園内移動の利便性の向上

■5GやARなどの次世代技術を活用した来園者サービスの向上 **新規**

【環境とエコパーク】

■風力発電や太陽光発電設備などを活用した環境学習プログラムの充実

■各施設の環境学習プログラムの拡充と出前講座やオンラインでの実施



(風力発電施設)

拠点⑦ 世界の植物と彫刻の調和の拠点

●P.20、P.22に施策を掲載

拠点⑧ 古民家と山野草園を中心とする和の拠点

●古民家「憩いの家」での伝統文化活動の場などの創出
●その他の施策はP.24に掲載

拠点⑨ 森の中の彫刻展示場

●彫刻と自然環境が融和した特色ある彫刻の常設展示

拠点⑩ ラン・ウォーク&レスト

●ジョギングやウォーキングを楽しむ人などの休憩所の整備





拠点① スポーツ広場を中心としたスポーツ活動や健康づくりの拠点

- 広域スポーツ大会などの誘致によるスポーツツーリズムの推進
- レノファ山口、ミネルバ宇部によるサッカーやフットサル教室等の開催 **拡充**
- 他の施策はP.26に掲載



(サッカー場)

拠点② ときチャレと景観植物の拠点

- 園外からの車両等による進入路を新たに整備
- 次世代技術を活用した商品開発の活動拠点やシェアオフィスの整備の検討 **新規**
- 大量の落ち葉や剪定ごみの堆肥化などの資源循環
- ヒマワリ、コスモス、ナノハナなど、四季を通じて花を楽しめる場の創出

拠点③ 果樹の拠点

- オリーブやブルーベリーなどの果樹の栽培

拠点④ ときわ湖水ホール周辺～旧青年の家

- ときわ湖水ホールの利用を促進
- 旧「青年の家」の解体とその跡地と少年キャンプ場との一体的利用の検討



(ときわ湖水ホール)

拠点⑤ 市民協働と歴史の拠点

【花いっぱい運動記念ガーデン】

- P.24に施策を掲載

【石炭記念館】

- 炭鉱の歴史を後世に伝える資料館として今後のあり方の検討
- 炭鉱に関わる道具を体験できる展示やイベントの開催
- VR、3D画像などを活用した新たな展示の実施
- 炭鉱の歴史を正しく後世に語り継ぐことができる人材の育成



(石炭記念館)

拠点⑥ 賑わいの拠点(遊園地と動物園)

- P.18に施策を掲載

4 新たな成長産業の創出

ときわ公園はこれまで、市民の憩いの場、貴重な観光資源として利用されてきましたが、新たに産業創出にチャレンジする「実証フィールド」の場としての活用も進めていきます。

ときわ公園を産業創出の場として活用する取組「宇部市ときわ公園実証フィールド活用事業」では、民間事業者がイノベーションや新たなビジネス創出に向けた実証事業等を行う「ときわ公園チャレンジ(愛称;ときチャレ)」を市内外から広く公募します。その中から採択された事業について、市がフィールドの提供や伴走支援することで、次代を担う新たな産業の創出を促進していきます。

この取組によって、ときわ公園が、次世代を担う若者たちにもより一層楽しむことができる場となり、さらに、魅力的で発信力のある場になることをめざします。

令和3年度(2021年度)に実施した「ときわ公園チャレンジ」では、次の6つのテーマと、未来に向けた自由提案についてアイデアや実証事業の募集を行い、令和4年度(2022年度)から採択事業を実施していきます。

次世代技術

次世代技術だけではなく、新技術と既存技術の組み合わせなどにより、ときわ公園が持つ既存のポテンシャルに新たな魅力が加わることで、誰もが訪れてみたくなる公園、他と差別化が図られた公園をめざします。

モビリティ

ときわ公園という閉鎖空間の中で、安全に配慮しながら来園者が楽しめる新技術を活用したモビリティの導入により、年齢や障害の有無などに関わらず、誰もが訪れてみたくなる、市民が誇りを持てる公園をめざします。

常盤湖の新たな活用

北部を自然林に囲まれ、約100haの広大な面積を誇る常盤湖は、計り知れないポテンシャルを秘めています。水質の保全や改善、広大な湖面を活用した次世代発電やレジャーなど、未知なる魅力を最大限に引き出せる事業者とともに、公園への誘客や産業の振興をめざします。

資源循環

ときわ公園の湖、森、花壇など豊富な自然資源から生まれる様々な「もの」を公園内で循環させることにより、循環型社会の成功事例として構築することをめざします。園内から排出される花木を再資源化することや、湖・森・花壇での未利用資源を掘り起こし、それらを循環させていくことにより、自然資源の新たな活用スタイルを創出します。

キャンプ場

新しいテクノロジー等を活用し、子育て世代を含む若い世代を中心に、低料金で遊び、学べ、動物園や植物館なども利用しやすい、近隣にない複合利用型キャンプ場とすることで、また来たくなるワクワクするキャンプ場をめざします。

新たな情報発信

ときわ公園は、動物園や植物館などの主要な施設は多くの市民に知られていますが、例えば野鳥観察ポイントなどの多彩なスポットがあることや、「さくら名所100選」などの指定や選定が多数されていることは、あまり知られていません。また、公園利用者の約8割が市民という状況からも、市外に向けたときわ公園の魅力発信が不十分であると考えられます。誰でも気軽に情報を取得できる方法や行動変容を促す新たな情報発信等により、ときわ公園の魅力発信と認知度向上による来園者の増加をめざします。

5 集客対策

ときわ公園は、収支バランスを図りながら年間入園者数80万人を目指し、各資源の魅力の向上と、イベントの充実やSNSをはじめとした様々な情報媒体を活用した効果的な情報発信に取り組みます。

イベント

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、ときわ公園で開催するイベント等も、スマートフォンなどを活用した非接触型や、来場者の密を避けるために開催日や会場を分散させるなど、新しい生活様式への対応が求められています。

TOKIWAファンタジア

冬のイベント「TOKIWAファンタジア」は、園内で開催されるイベントの中で最も来園者が多いイベントです。今後も、来園者の三密を回避するなど、感染予防対策を図るとともに、経費を節減しながら幻想的な空間を体感できるイルミネーションイベントを目指します。



市民感謝デー

ときわ公園では、毎年、期間を定めて市民を対象とした動物園、植物館の無料開放イベント「市民感謝デー」を開催しています。今後も、市民の皆様には動物園と植物館に親しんでいただくために、継続して開催していきます。

ドリームデイ・アット・ザ・ズー

平成30年度から障害のある方やその家族が、周囲に気兼ねなく動物園を楽しむことが出来るように、「ドリームデイ・アット・ザ・ズー」を開催し、動物園を無料開放するとともに、様々なイベントを開催しています。今後も、共生社会を推進するために、継続して開催していきます。

その他のイベント

桜などの花やハロウィンなど季節にちなんだイベントを展開し、賑わいを創出するとともに、UBEビエンナーレをはじめ、彫刻に触れ、体感できるアートイベントやワークショップなどを開催し、アートによるまちづくりを推進します。



食とお土産品

入園者の食に対するニーズは多様化しており、園内店舗が提供するメニューの工夫と多様化が必要とされています。

また、お菓子やグッズなどときわ公園を印象付けるオリジナル商品の充実が必要とされています。

入園者への食の提供

園内には、カフェや軽食レストラン、焼き肉店など、多彩な食を提供する既存店舗が5店舗あります。これらの店舗と連携しながら、食の提供の充実に取り組みます。

- 時代のニーズに対応したオリジナルメニューの提供
- 園内や市内で採れる食材を活用した地産地消メニューの提供
- イベント開催時のキッチンカーの導入による食の充実と感染対策の実施 **再掲**
- ときわミュージアム喫茶室の再利用の検討 **再掲**



お土産品

既存店舗や市内の民間企業と連携し、ときわ公園オリジナルキャラクターの開発と、それを活用したお土産品の開発に取り組みます。

- 園内で採れる材料(ウメ、ブルーベリーなど)を使った商品の販売
- 植物館のオリジナルキャラクターを活用した限定グッズの開発
- ときわミュージアムに展示中の植物の苗や種の販売
- ときわミュージアム売店の再利用についての検討 **再掲**



民間活力の導入

園内で開催されるイベントについては、感染症拡大防止に十分に配慮しながら、市の主催イベントは、民間事業者との連携によりグレードアップを図ります。また、企業や市民活動団体等が主催するイベントの積極的な誘致にも取り組み、経費を節減しながらイベントの充実に取り組みます。

食については、園内で植栽するウメやブルーベリーなどを活用した特色ある製品の商品化への支援や、民間企業が商品開発する場合の実証実験の場を提供するなどして、地域産業の振興や育成を支援します。

情報発信

スマートフォンやタブレット等の情報端末が普及し、いつでも誰でも手軽に情報を入手できるようになったため、リアルタイムでの情報提供が重要になっています。多様なターゲットの特性を意識し、特性に応じたさまざまな情報媒体を駆使して旬の情報を発信していきます。

市民や来場者への発信

- 市広報の活用や情報誌「ときわ公園ニュース」、イベントチラシの充実
- パンフレットやポスターのデザイン性の向上

県内や近県への発信

- テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等の特集記事などへの積極的なパブリシティ活動
- 新聞、雑誌等への効果的な広告掲載

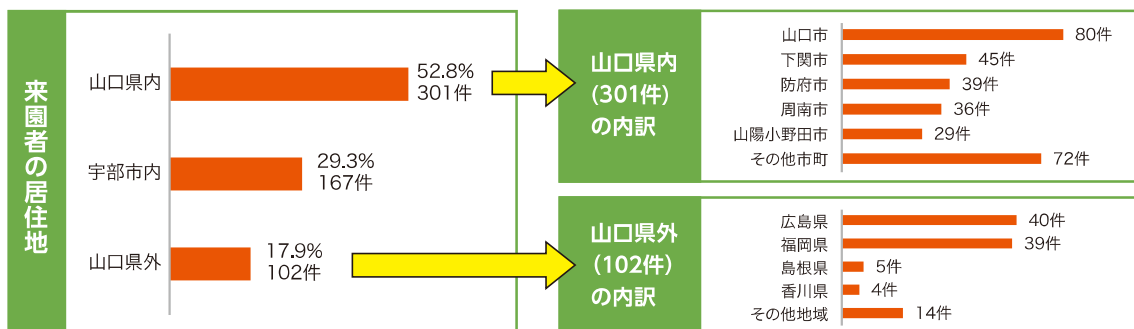
全国への発信

- ときわ公園公式ウェブサイトのリアルタイムで誰にもわかりやすい情報提供
- 多彩なSNSを利用した即時的な情報発信と話題づくり

その他の発信

- 広域連携などによるPRブース設置及び広報媒体への相互連携
- UBEビエンナーレなど、内外に向けた情報発信の強化
- 「ときチャレ」の中で、新たな情報発信の実証実験の実施

「ゴールデン・ウィーク来園者アンケート」より（令和3年度実施）



近隣市や近県からの来園者が多く、当該地域に向けた効果的な情報発信に取り組みます。

観光交流対策

令和3年度(2021年度)に改定した「宇部市観光交流アクションプラン」においても、ときわ公園は主要な観光資源と位置付けられており、ときわ公園を核とした観光交流の推進に取り組みます。

新しい生活様式の中での観光交流

- 近隣の宿泊施設と連携したワーケーションやブレジャーなど旅行商品の開発 **新規** **再掲**
- テレワークやワーケーションのためのWi-Fiスポットの整備 **拡充**
- テレワークに対応できる施設やシェアオフィスの整備の検討 **新規**

観光旅行等の誘致

- 近隣自治体と連携した広域観光周遊ルートや広域観光の情報発信
- 園内の多彩な資源を活用した環境学習プログラムの充実による教育旅行等の誘致
- 海響館、徳山動物園、秋吉台サファリランド、やまぐちフラワーランドとの連携強化
- ときわ公園全体の資源が連携した周遊性の向上

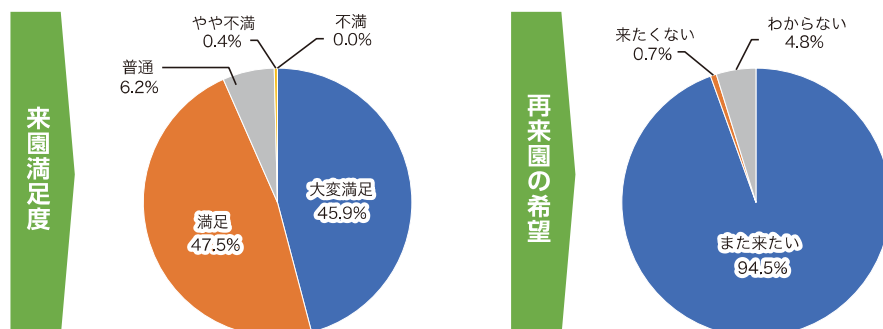
市内連携による回遊性の向上

- ポスター等の広報媒体への相互掲載など、他のイベントとの連携強化

誘客プロモーションの推進

- 園内の各施設や体験プログラムのPR動画など、新たな誘客ツールの開発 **新規**
- 教育旅行などに対応した誘客ツールやプランの開発 **新規**
- PRブースの設置や広報媒体への相互の情報掲載など、全国的に評価の高い芸術祭や文化施設等との連携強化 **再掲**

「ゴールデン・ウィーク来園者アンケート」より(令和3年度実施)



来園者の満足度向上によるリピーターの増加に取り組み、観光交流を推進します。

第4章

管理運営体制

魅力あるときわ公園を持続可能な公園として後世に引き継ぐために、収支バランスを図りながら、経営の安定化に取り組むとともに、市民ボランティアや民間企業等との共創の場を創出するなど、管理運営体制の見直しに取り組みます。

1 収支

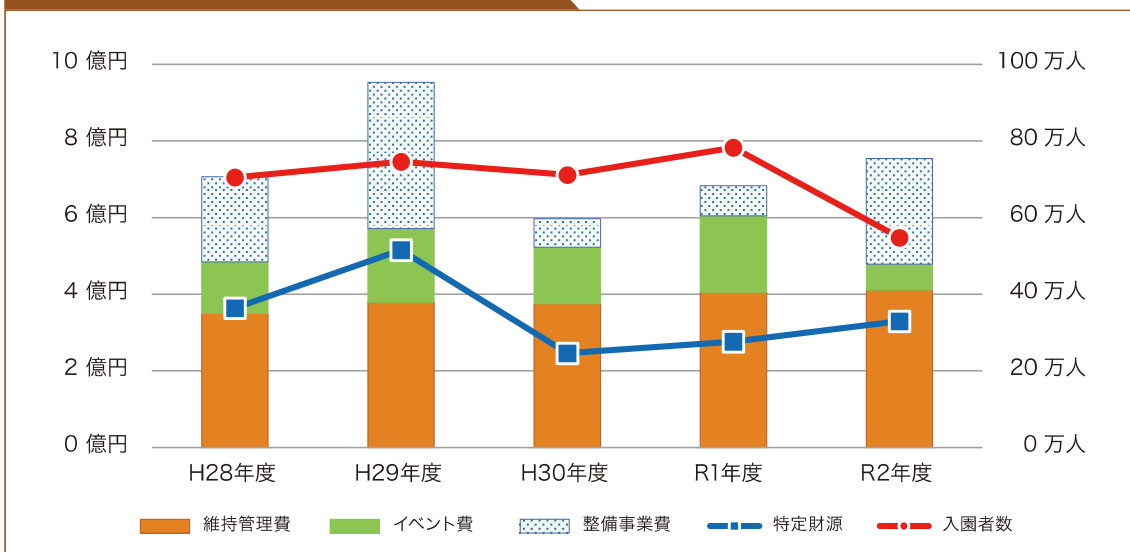
(1) 収入

ときわ公園の主な収入は、駐車場使用料、ときわ動物園入園料、植物館入館料、公園占用料、ときわレストハウス、ときわ湖水ホール等の施設使用料および施設整備などに伴う国県の補助金と市債になっています。これらの収入のうち、駐車場使用料、動物園入園料、植物館入館料は、魅力の向上によって増大が見込めます。

(2) 支出

支出については、施設等の維持管理費、イベント等の開催経費、整備事業費で構成されています。動物園と植物館のリニューアルが完了したことで、整備事業費が減少し、支出は一時的に減少しましたが、集客対策としてのイベント等の開催経費と、最低賃金の上昇などによって施設等の維持管理費は、上昇傾向にあります。

ときわ公園の収支と年間入園者の推移



※職員人件費を除く

(3) 収支バランス

施設整備やイベントの充実により、ときわ公園の入園者は、増加したものの、有料施設の動物園、植物館の利用者は、リニューアル当初に比べると減少し、さらに令和2年度には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて大きく減少したため、収入は減少しました。その一方で、イベントの開催経費や維持管理が上昇しているために、収支は悪化しています。

今後は、経費を節減しながら入園者等の増加に取り組むとともに、他の動物園や植物館、公園施設の管理運営状況を調査、研究するなどして、管理運営体制の見直しにも取り組み、安定的な公園経営を目指します。

2 管理運営体制

現在の管理運営体制に加え、新たに専門家や民間事業者等の総合プロデュースの導入などにより、施設等の魅力の向上に取り組むとともに、効率化とコスト削減による収支バランスが取れた管理運営体制の見直しにも取り組みます。

ときわ動物園

現在、公益財団法人宇部市常盤動物園協会への委託による管理運営を行っています。今後は、動物園の経営を安定化させるために、同協会を運営管理者とする指定管理を目指します。

遊園地

現在、民間事業者の民設民営になっており、今後も、民設民営を維持していきます。

ときわミュージアム【植物館】

現在は、市の直営による管理運営を行っていますが、リニューアルオープン以降、入館者の減少が続いています。今後も入館者の増加が見込めない場合には、民間事業者による管理運営も検討していきます。

公園全体

現在、公園全体の運営形態については、公設公営を基本としていますが、動物園の管理運営は委託、遊園地の遊器具は民設民営、花壇や花木の一部の維持管理を障害福祉サービス事業所への指定管理など、多様な運営形態を採用しています。今後は、他市の公園の管理運営状況も参考にしながら、民間事業者による総合プロデュースなども検討していきます。

3 共創による公園づくり

ときわ公園の管理運営には、動物園の管理運営にあたる常盤動物園協会、遊園地の遊器具の設置運営事業者、花づくりや清掃などに取組むボランティアなど、事業者、団体、個人など多様な主体が関わっています。これまで、これらの施設の管理者等は、市民との連携や協働による公園づくりの考えのもと、個々の目標達成に向けて活動に取り組んできたため、公園全体としての統一感が十分ではありませんでした。

今後は、協働から共創へステップアップし、それぞれの公園施設の管理者等が、課題の抽出や目標の設定段階から解決策の検討や施策の実施まで、互いに関りを持ち、市民が誇れる都市公園の実現という一つの共通目標の達成に向けて、各施設が連携した取組を進めます。

- ボランティアとの連携を強化するために、連絡協議会等の設置を検討
- 各公園施設の代表等で構成するプラットフォームの設置による情報共有
- 来場者の意見を施策に反映するために定期的なアンケートの実施



用語解説

用語	説明内容
アーカイブ	将来に残すために保存された記録物や文集類、それらの保管施設、設備などのこと。
アートコミュニケーター	アートを介して、人と人、人と作品、人と場所をつなぐプレイヤーのこと。
エコパーク	自然とふれあいながら、環境保全や資源循環などについて学べる公園。
共創	民間と市が対話し、民間のアイデア、ノウハウや創意工夫をもとに、相互の役割、機能などをベストミックスさせ、価値ある公共サービスを創出・提供することをいう。
シェアオフィス	企業や個人が利用するためのオフィス空間や設備を共有するという発想の貸し事務所のこと。
シビックプライド	都市に対する市民の誇りを指す言葉。 「この都市をより良い場所にするために自分自身が関わっている」、「自分がこの都市の未来をつくっている」という当事者意識を伴う自負心のことをいう。
スポーツツーリズム	スポーツイベントの参加者などと開催地周辺の観光と融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などをめざすもの。
テレワーク	勤労形態の一種で、情報通信技術を活用し時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く形態をいう。
ドリームデイ・アット・ザ・ズー	1996年にオランダのロッテルダム動物園で始まった国際的なイベントで、動物園を障害のある子どもたちとその家族に開放し、気兼ねなく動物とのふれあいを楽しんでもらうイベント。
ときわ公園実証フィールド活用プロジェクト (愛称:「ときチャレ」)	成長産業創出の取組の一環として、新たなビジネス創出に向け、ときわ公園の実証フィールドとしての活用を検討するプロジェクト。

用語	説明内容
花いっぱい運動記念ガーデン	花いっぱい運動から始まった花壇コンクールの100回を記念して整備されたガーデンのこと。「花いっぱい運動」を始めた先人、半世紀にわたって花づくり・まちづくりに参加された多くの市民に感謝するとともに、今後のさらなる花いっぱい運動の展開をめざすシンボル。
ブレジャー	「Business(ビジネス)」と「Leisure(レジャー)」を組み合わせた造語。出張等の機会を活用し、出張先等で滞在期間を延長するなどして余暇を過ごす仕組み。
モビリティ	「動きやすさ」、「可動性」、「移動性」、「流動性」などを意味し、職業の移動や階層の移動、または乗り物など人の移動に関する用語として使用される。
ワーケーション	「Work(ワーク)」と「Vacation(バケーション)」を組み合わせた造語。リゾート地や地方等の普通の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得等を行う仕組み。
5G	「第5世代移動通信システム(5th Generation)」のことで、高速大容量、高信頼・低遅延通信、多数同時接続という3つの特徴がある。日本では2020年春から商用サービスがスタートし、次世代の通信インフラとして社会に大きな技術革新をもたらすことが期待される。
AR	「Augmented Reality」の略で、「拡張現実」と訳される。スマートフォンやARグラス越しで見ると、現実世界にナビゲーションや立体画像、動画などのデジタルコンテンツが出現し、現実世界に情報を付加する技術をいう。
SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービス。職業や趣味など個人間のつながりを促進し、社会的なネットワークの構築を支援するフェイスブックやツイッターなどインターネットを利用したサービス。
VR	「Virtual Reality」の略で、「人工現実感」や「仮想現実」と訳される。「表面的には現実ではないが、本質的には現実」という意味が含まれ、VRによって「限りなく実体験に近い体験が得られる」ということを示す。

